

氏名(本籍)	久 ^く 米 ^め 絢 ^{あや} 弓 ^み (千葉県)
学位の種類	博士 (ヒューマン・ケア科学)
学位記番号	博 甲 第 6245 号
学位授与年月日	平成 24 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	在日中国人留学生のヘルスプロモーションに関する研究 - QOL 評価と関連要因の検討 -
主査	筑波大学教授 博士 (保健学) 市川 政 雄
副査	筑波大学教授 博士 (医学) 大久保 一 郎
副査	筑波大学教授 保健学博士 安 梅 勅 江
副査	筑波大学講師 博士 (保健学) 柏 木 聖 代
副査	筑波大学助教 博士 (心理学) 大 谷 保 和

論 文 の 内 容 の 要 旨

(目的)

我が国では、グローバル戦略を展開する一環として 2020 年までに「留学生 30 万人計画」が策定され、今後留学生の益々の増加が予測されている。在日留学生は保健行動を起こしにくいことが指摘されており、その原因として日本の医療事情の知識不足、単身で来日していることが多いということが挙げられている。保健行動への支援には個人や集団の保健行動の実践状況の把握が必要である。これまで保健行動に関する尺度が開発されてきたが、留学生を対象とした保健行動を測定した尺度はなく、外国から移住した留学生には医療へのアクセスに関する問題が挙げられており、この問題に合わせた受療行動、予防行動、健康意識の評価が必要である。しかし、留学生を対象とした受療行動、予防行動、健康意識に関する指標は開発されていない。保健行動を支援することが QOL の向上、ヘルスプロモーションにつながるため、QOL の関連要因を検討することが必要である。健康関連 QOL に関連する要因の検討には性別、年齢に加え、経済的要因、社会的関係、健康、保健行動の変数が挙げられている。留学生、特に中国人留学生は経済的負担、社会的支援の少なさ、健康問題、保健行動に関する問題があり、健康関連 QOL を損なうことが予測される。しかし、留学生の健康関連 QOL に影響を及ぼす要因は明らかにされていない。そこで本研究では以下の目的を設定した。

1. 在日中国人留学生の保健行動を測る尺度を作成
2. 在日中国人留学生の保健行動尺度の信頼性・妥当性の検討
3. 在日中国人留学生の健康関連 QOL 評価と関連要因を検討

(対象と方法)

1. 先行研究より保健行動尺度を作成し、質問紙調査をおこなった。広島県の 4 大学 (私立大学) で調査協力が得られた学部在籍する留学生 107 名を分析対象とした (調査 A)。分析には探索的因子分析 (主因子法、斜交回転法) を実施した。信頼性の検討には Cronbach の α 係数を算出し、基準関連妥当性の検討に

は下位尺度と主観的健康、ストレス、身体的健康、精神的健康、ソーシャルサポートの指標間の相関を算出した。

2. 全国の留学生在籍数上位10校（平成21年度外国人留学生在籍状況調査結果 留学生受け入れ数多い大学 日本学生支援機構）のうち協力が得られた大学7校で調査をおこなった（調査B）。有効回答数745を分析の対象とし、1で構成した保健行動尺度の共分散構造分析による検証的因子分析をおこなった。モデルの適合度指標にはGFI、AGFI、CFI、RMSEAを用いた。GFI = 0.90以上、AGFI = 0.90以上、CFI = 0.90以上、RMSEA = 0.1以下を判断基準とした。

3. 本研究では調査Bを対象とし、QOLと関連要因の検討には、重回帰分析には強制投入法を実施した。尺度得点の正規性には正規Q-Qプロットによって確認をおこなった。

（結果）

1. 探索的因子分析（主因子法、斜交回転法）をおこなった結果、共通性0.16以上の項目を採用し、因子負荷量が0.40に満たなかった1項目を削除し、9項目のモデルとした。因子数はスクリープロットにより大きく落ち込む部分を採用した。第1因子〈受療行動〉、第2因子〈予防的保健行動〉の2因子からなる尺度になった。累積寄与率は42.54%であった。下位尺度ごとに信頼性係数を算出したところ、〈受療行動〉 $\alpha = 0.818$ 、〈予防的保健行動〉 $\alpha = 0.634$ となった。尺度全体としては0.8であった。

基準関連妥当性の結果、保健行動がとれている者は主観的健康度が高く、ソーシャルサポートが得られている傾向にあり、本尺度の併存的妥当性が示された。

2. モデルの適合度はGFI = 0.946、AGFI = 0.906、CFI = 0.943、RMSEA = 0.089であった。分析方法で設定した判断基準からモデルの適合度は十分なものを示した。

3. QOLには性別、留学形態、受療行動、予防的保健行動、身体的健康、ストレス、留学生の友人からの支援が得られているか、日本人からの情緒的な支援が得られているかが関連していた。

（考察）

1. 留学生は保健行動がおこしにくいことが指摘されている中、保健行動の実践状況が把握されていない。またそれに合わせた保健行動を評価する指標は開発されていない。本尺度の開発は留学生のQOL向上のための評価につながると考えられる。

2. 検証的因子分析ではモデルの適合度は統計学的に有意な水準を満たし、1の探索的因子分析で得られた保健行動尺度の内的構造が確認された。留学生の保健行動を把握する上で、本研究で作成された保健行動尺度が有効なモデルであることが示されたと考える。

3. QOL 関連要因の検討

1) 健康と保健行動要因

QOLと健康、保健行動は関連しており、健康、保健行動への支援がQOL向上に重要な役割を果たすと考えられる。

2) 経済的要因

中国人私費留学生の特徴として留学生全般や私費留学生全般と比較してアルバイトに従事している者が多いことが指摘されている。本研究の対象者も主な収入源をアルバイトとしている者が最も多くを占めている。経済的ゆとりがない留学生は生活費や学費への不安を抱えながら、多忙な環境下で学業に取り組むことでQOLが低い状態に陥っていることが考えられる。日本の留学生は私費留学生が最も多く、経済的支援が望まれる。

3) QOLに関連する人的支援、留学生が必要としている人的支援

留学生や日本人の友人の支援が健康関連QOLにつながっているため、ピアサポート体制の導入を強化し、ネットワークの構築していくことが重要であると考えられる。情報提供や留学生のニーズを把握し適した支

援を提供する等、環境を整えていくことが課題である。

審 査 の 結 果 の 要 旨

留学生を積極的に受け入れようとするわが国において、留学生に対するヘルスプロモーション活動は、充実した留学生生活を支援するうえで不可欠である。著者はそこで必要となる保健行動の尺度開発を行い、その尺度を用いて有用な基礎資料を供した。

平成 24 年 1 月 19 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（ヒューマン・ケア科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。